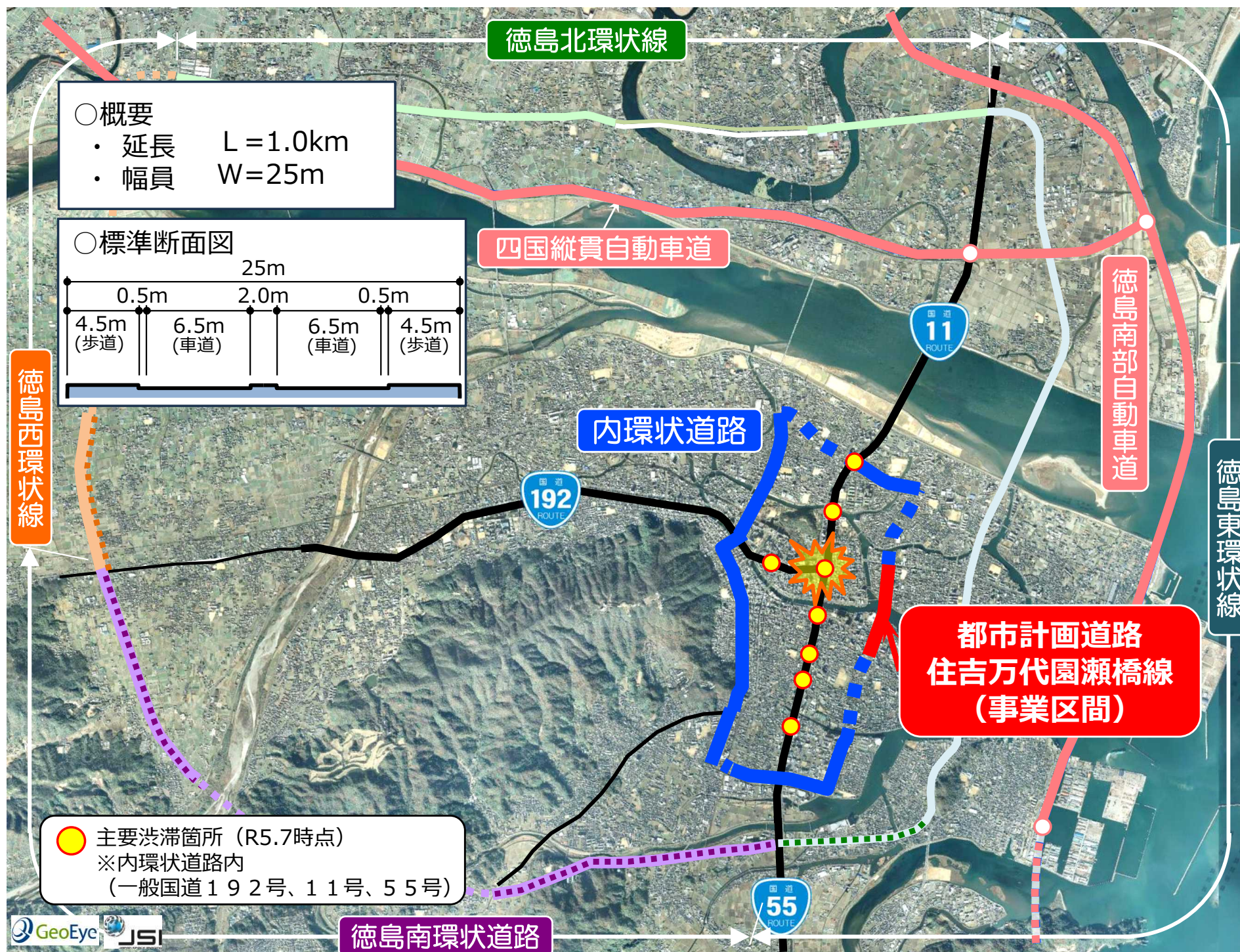


再評価【番号3】都市計画課

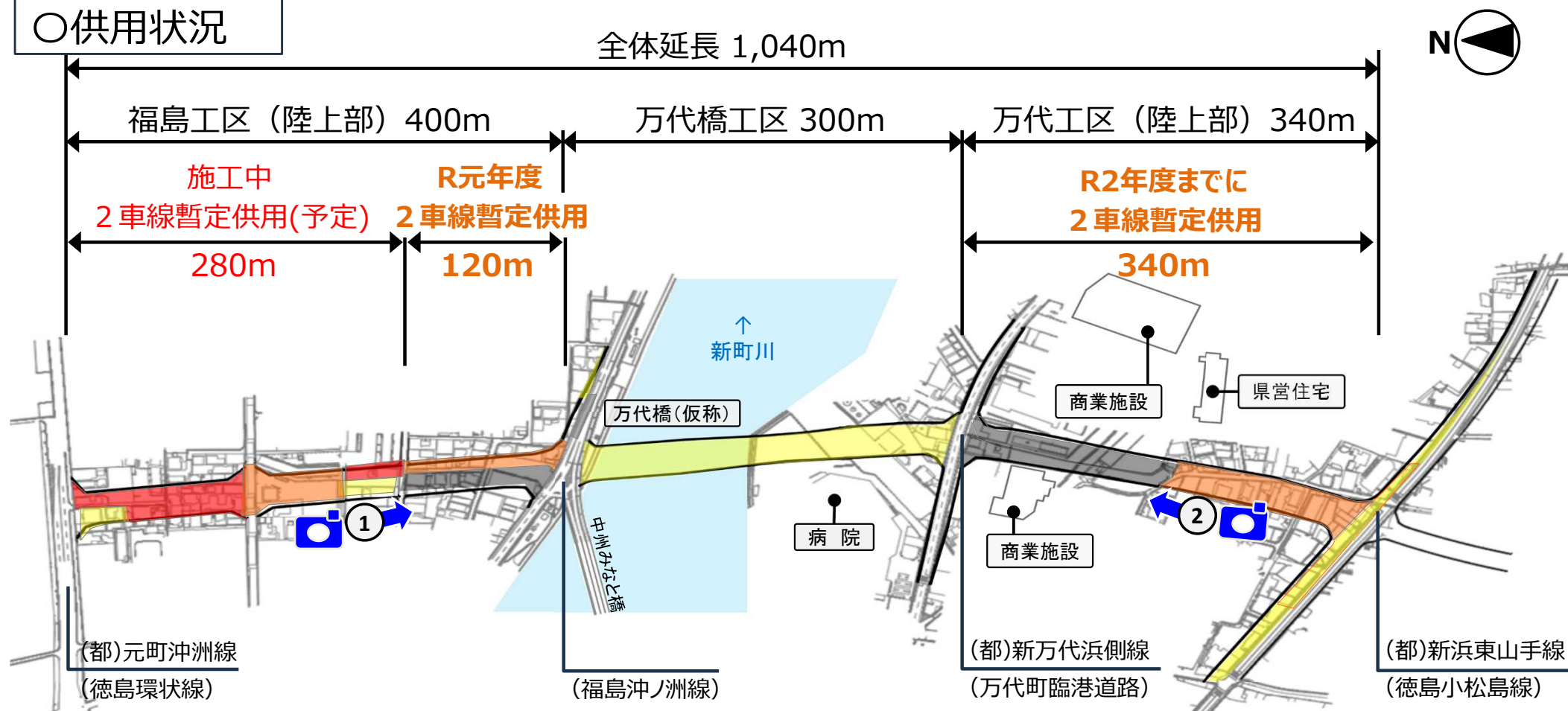
都市計画道路
住吉万代園瀬橋線



2. 事業の進捗状況

2

○供用状況



凡例 整備状況			
H30まで	R1-R5	R6	R7以降

《進捗率》
 事業費：58%・用地：80%

○前回評価時からの変更点



全体事業費 前回 105億円 ⇒ 今回 140億円 (+35億円)

- ・建設資材及び労務単価等の高騰
- ・埋蔵文化財調査の追加等

完成年度 令和11年度 ⇒ 令和12年度 (+1年)

- ・家屋やマンションの移転補償の調整
- ・埋蔵文化財の調査

貨幣価値換算可能な整備効果

①従来の3便益

- ・走行時間短縮便益
- ・走行経費減少便益
- ・交通事故減少便益

計 **198.6** 億円
(現在価値化後)

②その他の便益

- ・救急救命率向上便益 : 16.2 億円
- ・環境負荷低減便益 : 8.7 億円

計 **25.0** 億円
(現在価値化後)

①+②

計 **223.6** 億円
(現在価値化後)

費用

- ・事業費
- ・維持管理費

計 **187.6** 億円
(現在価値化後)

その他便益を含む **B / C = 1.2**

貨幣価値に表れない整備効果

安全・安心

■ 歩行者・自転車の安全性、快適性向上

- ・通勤・通学ピーク時に歩行者と自転車が錯綜する「かちどき橋(一般国道11号)」において交通分散が促進

➡ **車両等の走行性、快適性の向上**

にぎわい

■ 交流の拡大・雇用増大

- ・ブランド力が向上している「万代中央ふ頭」へのアクセス性が向上
- ・新町川で分断されていた2地区に交流が誕生・促進
- ・居心地がよく歩きたくなるウォーカブルな環境の形成
- ・周辺のマンション、店舗等の開発が促進

➡ **更なる交流の拡大・雇用増大**

防災・減災

■ 災害時における緊急輸送道路の代替路確保

- ・緊急輸送道路である一般国道11号の代替路として迅速かつ柔軟な避難行動が可能
- ・「かちどき橋」と「万代橋」のダブルネットワークによる、リダンダンシーの確保

➡ **災害リスク増大に対する強靱な道路ネットワークの構築**

① 構造物の概要

名 称：万代橋（仮称）

諸 元：L=130m W=25.0m 第4種1級 V=60km/h

事業費：●億円

※事業費について、今後の工事発注を見据え非公開にしています

② 大規模構造物の費用対効果（B／C）

$$\underline{B / C = 1.4}$$

③ 事業の必要性・重要性

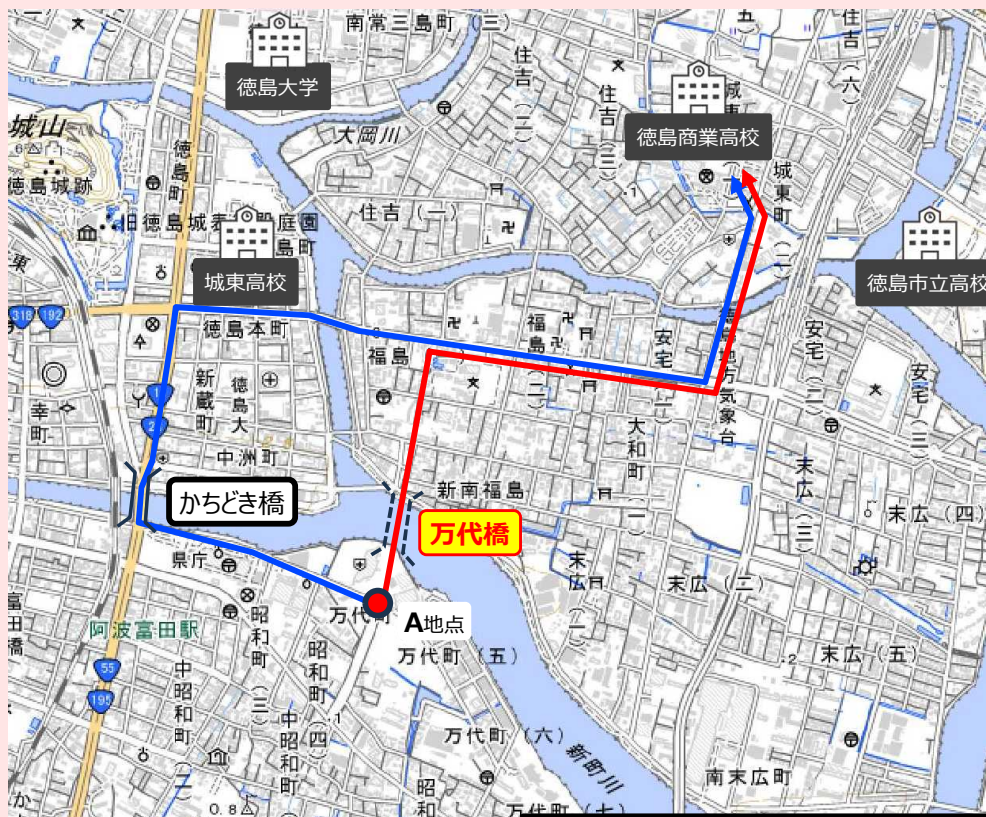
- ・本年発生 of 「能登半島地震」など、**リダンダンシー確保の必要性の増加**
- ・本県が進めている「**魅力ある県都のまちづくり**」の一翼を担う「万代中央ふ頭」へのアクセス向上による**交流の拡大**や、周辺の開発による**雇用増大**

⇒ **必要性・重要性が高まっている。**

● 歩行者・自転車の安全性、快適性向上

- ・通勤・通学ピーク時の「かちどき橋（一般国道11号）」において、歩行者と自転車が錯綜

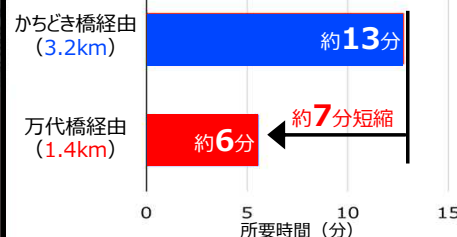
⇒**交通分散が図られ、安全性、快適性の向上が期待**



自転車と歩行者が錯綜するかちどき橋



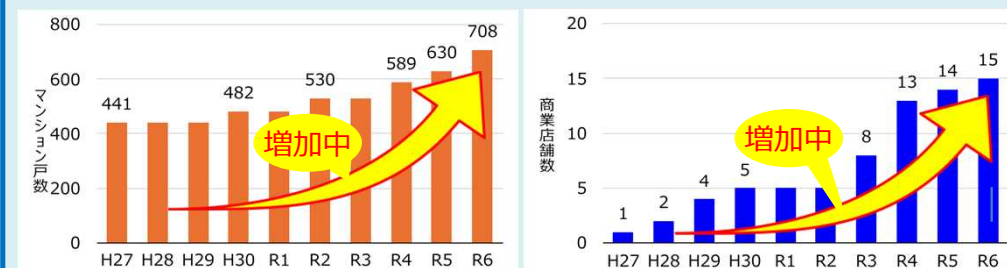
Aから徳島商業高校 自転車所要時間



● 交流の拡大・雇用増大

- ・ブランド力が向上している「万代中央ふ頭」へのアクセスの向上
- ・新町川で分断されていた2つの地区に新たな交流が誕生・促進し、「居心地がよく歩きたくなるウォーカブルな環境」を形成
- ・道路整備により、周辺のマンション、店舗等の開発が促進

⇒**更なる交流の拡大・雇用増大が期待**



マンション戸数の推移(万代・昭和・福島町)

商業店舗数の推移(万代・福島町)



● 災害時の代替路確保

現状

令和6年発生 of 能登半島など、大規模地震の切迫性が高まる中、

- ・ 災害時、家屋・電柱の倒壊により道路が閉塞し、避難困難のリスクあり
- ・ 「かちどき橋」に交通が集中し、物資輸送、救助活動等に支障を来すリスクあり
- ・ 津波及び船等の漂流物による複合災害により、緊急輸送道路の被災リスクあり



整備後

- ・ 信頼性の高い避難ルートが増え、迅速かつ柔軟な避難行動が可能
- ・ 「かちどき橋」と「万代橋」のダブルネットワークにより、リダンダンシーを確保



大規模構造物の検証 評価分類「I 類」

コスト縮減を図った上で、**万代橋(仮称)の整備**を推進する。

■ 今後の対応方針（案）

事業継続